

## アジア神学者会議の誕生

加山 久夫

去る5月25日から6月1日まで、  
韓国水原にてアジア神学者会議

(Congress of Asian Theologians、略  
称 CATS) の設立総会が開かれま  
した。

21世紀はアジアの世紀とも言わ  
れていますが、現実にはアジアの  
どの国、地域をとっても、貧困や  
政治的緊張や民族・宗教間の対立  
など、多くの深刻な問題を抱えて  
いることは周知のとおりです。そ  
のアジアにおいてヒンズー教、仏  
教、イスラムなどの人々の中で、  
二億八千万人ともいわれるキリス  
ト者がおり、これまでアジアキリ  
スト教協議会をはじめとして、教  
派を超えてさまざまなエキュメニ  
カルな協力のもとで、アジアが直  
面している諸問題と取り組む神学  
的実践的努力がなされてきました。

アジア神学者会議は、これらの  
さまざまな既存の組織ともネット  
ワーキングをとりつつ、恒常的に

アジア的コンテクストにおける神  
学的努力を積み上げていきたいと  
の思いをもつキリスト教研究者の、  
ボランティアな草の根神学運動と  
して発足しました。約250名ほど  
の参加希望者がいましたが、宿泊  
施設の関係で14ヶ国（香港、台湾、  
フィリピン、シンガポール、マレ  
ーシア、タイ、ミャンマー、イン  
ド、バングラデシュ、インドネシ  
ア、ラオス、スリランカ、オース  
トラリア、日本、韓国）から約90  
名が参加をゆるされ、「変化する  
アジアにおけるアジア神学——21  
世紀へのアジアの神学的課題」の  
テーマをめぐって、専門分野ごと  
に、あるいは問題別にグループに  
分かれて、協同討議をし、お互い  
に学び合うよき機会を得ました。

専門・学際分科会は次の通りで  
した——

(1)アジアにおける行動する神学  
の方法論、(2)聖書学、解釈学、  
テクスト解釈、(3)構成的神学、  
(4)歴史研究、(5)倫理と社会、  
(6)実践神学、(7)宗教と文化、  
(8)女性学、(9)伝道と神学。

期間中の2日間はつぎのイッシ  
ュー・グループに分かれ、各参加  
者はその何れかに参加しました——

(1)アジアにおける富める者と貧  
しい者、(2)宗教的多元性と人間  
の共同体の探求、(3)アジア神学  
における女性・ジェンダー問題、  
(4)アジアの対話の神学、(5)環境  
問題に寄与しうるアジア神学、  
(6)新たなエキュメニカル・ヴィ  
ジョンへのアジア的貢献、(7)宗  
教、民衆、力、政治社会、(8)ア  
ジアにおける平和、暴力、対立、

(9)アジア的文脈におけるミッション、宗教、伝道、(10)移民、難民、追放された人々。

参加者の大半は欧米において研究者としての教育を受けてきた人々であり、それぞれが属する教会も欧米からの宣教師たちによって種まかれ育てられてきました。その点ではわれわれの事情と基本的に共通していると言えるでしょう。しかし、自らが置かれている社会的文化的コンテクストの中で神学するという自覚の点では、日本のキリスト教研究者の状況は反省を促されているように思います。近代日本の形成過程で脱亜入欧を基本的姿勢としてきた日本において、キリスト教研究者——留学体験を持たない方々も含めて——も同様の姿勢で今日に至っているのではないのでしょうか。

私たちがこれからも欧米の研究者との交わりや対話から学ばなければならないことは言うまでもありませんが、その中でアジアの友人たちと対話し、日本を含めたアジアが直面する諸問題に共に関わることによって、それぞれの専門分野での研究に新たな視野が与えられるのではないか。また、アジアにとどまらず人類共同体のリアリティが学際研究をますます不可避なものとする状況にあって、狭義のキリスト教研究の枠を越えて、また、キリスト者と非キリスト者の枠をも越えて、共同の営みが広がってゆくことを心からねがっています。

(かやま ひさお

所長、一般教育部教授)